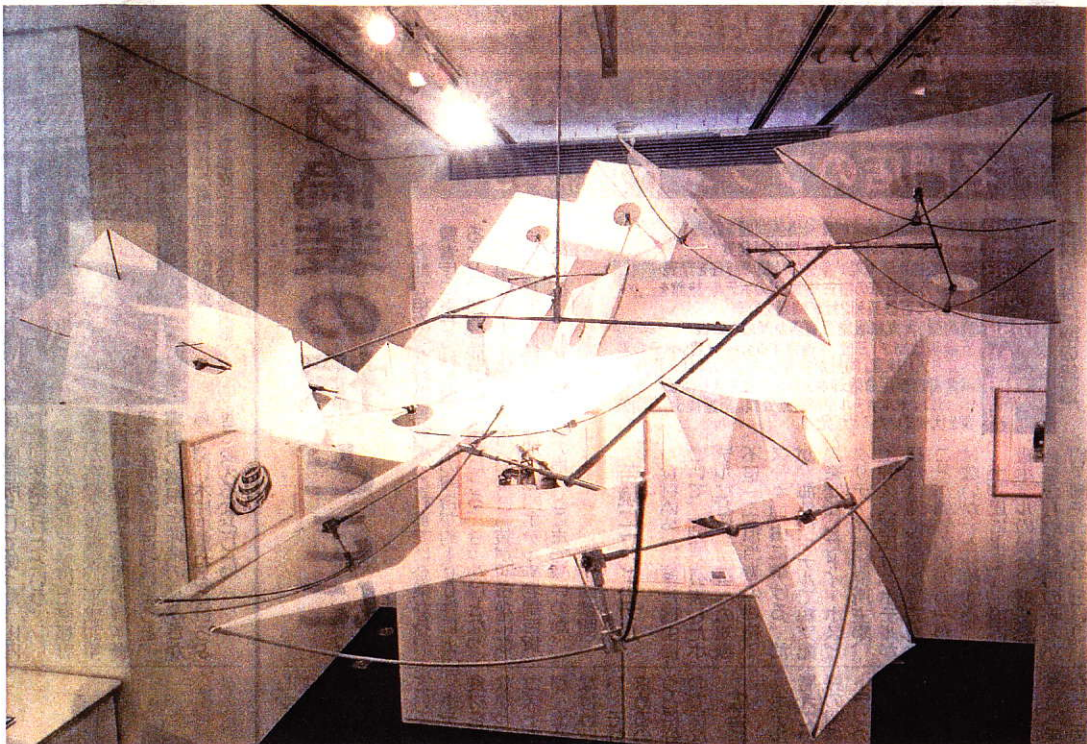


# 美と遊ぶ

bi to asobu

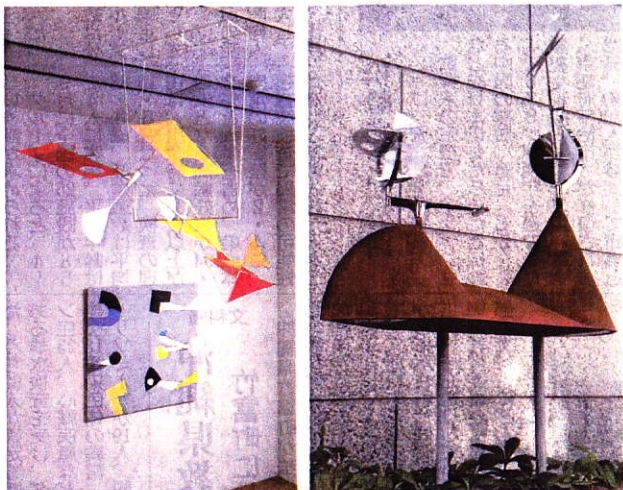
## 「小さな宇宙—新宮晋」展

大阪市 谷松屋戸田ギャラリー・山木美術



「星空」(2013年)

# 無限の中の一期一会

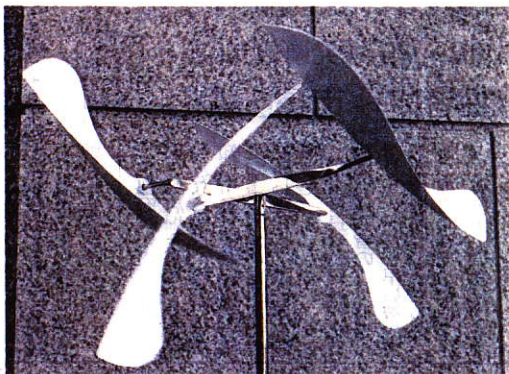


「時の流れ」(上部作品、2013年)と「風の日記」(壁面、2013年)

「伝説の島」(2013年)

新宮晋(しんぐう・すすむ) 昭和12年、大阪府豊中市生まれ。東京芸術大学絵画科卒業後、ローマ国立美術学校で絵画を学ぶ。45年、大阪万博会場で立体造形「フローティング・サウンド」を発表。欧米で一躍、注目を浴び、その作品は日本の都市や農村のみならず、米国、イタリア、フランスなど世界各地で親しまれている。

撮影・沢野貴信



「白い風」(2013年)

その作品、「星空」をじっと見ていたら、傍らにいた人がぼつり。「ささやかな空気の流れですよ、これが動いているのは。人は空気が大切さが分かっていない。空気の流れがなければ、人は死ぬ。」  
作者、新宮晋(76)のつぶやきだった。  
約25センチ四方の和紙のようにみえる樹脂の板が、4枚ずつ4つのブロックに規則的に組み合わさって、風の流れただけで宙を舞っている。ほのかな風を受けて無限に漂いながら、同じ動きが現れる。これは二度とない。  
大阪府中央区伏見町の谷松屋戸田ギャラリー・山木美術で30日まで開催中の「小さな宇宙—新宮晋」展。見飽きることがない立体の新作が屋外に3点、屋内に5点。さらに絵画が9点。  
世界を舞台に活躍する作家である。知らないうちに、誰もが彼の作品を目にしているはずだ。たとえば、関西国際空港の国際線ロビー。イタリアの建築家、レンゾ・ピアノ(76)が設計した長さ250メートル、奥行き85メートルの出発ロビーの空間には、柱が1本もない。その中空を、新宮が作った青と黄の夢の模型飛行機のような作品たちが漂っている。  
彼の作品は、時に都市を、時に農村を、時に海を飾ってゆく。「子供からおとなまで、誰が見ても楽しめる作品」と山木美術代表の山木武夫さん。それまで街なかのギャラリーでの個展経験がなかった作家が、この展示空間を気に入ったのが縁で、昨年に1回目をを行い、今度が2度目の展示となる。  
ギャラリーのなかで、飽きることなく作品を見つめていると、「賭行無常」という言葉をおぼろげに考えている自分があることに、ふと気づかされた。  
(正木利和)